



# 原子力産業新聞

2011年12月15日  
平成23年(第2603号)  
毎週木曜日発行  
購読料1年分前金(消費税、国内送料込)  
会費 9,500円(1部220円)  
非会費 15,000円(1部350円)  
(当会会費は年会費13万円に本紙購読料の9,500円を含む。1口1部)

発行所 日本原子力産業協会

〒105-8605 東京都港区虎ノ門1丁目2番8号 虎ノ門琴平タワー9階 郵便振替 00150-5-5895  
電話 03(6812)7103 FAX03(6812)7110 ホームページ <http://www.jaif.or.jp/> メールアドレス [shinbun@jaif.or.jp](mailto:shinbun@jaif.or.jp)

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

## 2011年の原子力界の主な動き

▽東北地方太平洋沖地震発生、大津波襲来で福島第一が冷却不能、1〜3号機で炉心溶融、過酷事故発生で「原子力災害」に。  
▽政府、放射能放出で避難指示、飲食物の出荷・摂取制限等発令、産業・住民生活への影響拡大。  
▽東電、事故収束の「道筋」を示し、年末に冷温停止状態に。  
▽政府、国会で福島事故に関する調査・検証が進む。学協会による提言、シンポジウム、国際ミッシンも。  
▽放射線モニタリング、除染戦略、健康調査など、被災地の環境回復・住民帰還への取組みが始まる。  
▽エネルギー政策の見直し始まる。民主党「原発への依存度低減」の方向で来夏にも成案。  
▽福島事故契機に原子力安全規制組織の見直し進む。「規制と利用の分離」、「二元化」方針で、来年度に新組織が発足。  
▽露・韓・越・ヨルダン各国との原子力協定締結、国会で承認。  
▽リトアニアのビサギナス原発建設計画で日立と日立GEが優先交渉権獲得。  
▽UAEが国内初のプラウラ原発建設計画で起工式。  
▽韓国安全委員会が福島後初めて、新設計画二件に建設許可。  
▽ロシアの規制当局、バルチック原発建設計画に建設許可を発給。  
▽米規制委がボーグル3、4号機計画で最終安全評価報告書発行、COL発給にメド。  
▽中国で福島事故後初となる嶺澳II-2が営業運転開始。

## 原子力4協定が参院で可決、承認

### 玄葉外相 「相手国の期待に今後も応える」



四協定は三月で審議が進んだ。四か国の福島原子力発電所事故の影響で、審議が止まっていたが、今百七十九臨時国会中に民主党と自民党で承認合意が成立し、玄葉外相の趣旨説明など衆参両院

露、韓、越、ヨルダンとの協力基盤  
福島事故後も推進堅持

今臨時国会の最終日の九日、参議院本会議で日本とロシア、韓国、ベトナム、ヨルダンとの各原子力協力協定の一括採決が行われ、賛成百八十三票、反対四十一票の賛成多数で、六日の衆院に続き可決、承認された(写真裏)。ロシアとは同国のウラン濃縮工場を使って日本の英仏再処理からの回収ウランの再濃縮、韓国へは原子力発電所向け資機材の輸出、ヨルダンとベトナムへは原子力発電所本体の輸出が、当面の課題プロジェクトとして進んでおり、平和利用協力の基盤となる二国間協定の締結で、基本的な協力枠組が整備されることになる。

## リトアニアとも文書

### 日本政府 平和利用を担保

た、「今までのように閣僚が積極的に海外にまで行って、原子力を売り込む」と述べてはならないか」と述べながらも、福島事故後も、この四か国は日本との協定締結を強く標榜、我が国との協力を熱望していることを表明している、とした。

玄葉外相は、ロシアのプーチン首相から野田首相に、協定の早期締結を主な内容とした電話があったこと、トルコなどからも強力な協力要請があることを明らかにし、今後も相手国の強い日本への期待がある場合に、協力して行く方針を明らかにした。

参院本会議での採択では、公明党、みんなの党、共産党、社民党が反対。いままで賛成してきた公明党が、今国会では反対と協定締結交渉中だ。

日露協定は〇九年に当時の自公政権時に、他三協定は民主党連立政権になつてから署名されたもので、このほかにインド、南アフリカ、トルコ、アラブ首長国連邦(UAE)と協定締結交渉中だ。

リトアニアはユーラトム(欧州原子力共同体)加盟国であり、我が国はユーラトムと原子力協力協定を締結していることから、二国間協定は必要を予承し、年内には同会議に報告、最終的には来夏に政府がまとめる「革新的エネルギー・環境戦略」に盛り込まれることになるが、今後の総合原子力委員会などの検討で、長期の計画が必要な核燃料サイクルのあり方や、コストには反映されない国としてのエネルギー安全保障の道を、どのように確保するかが最大の焦点となる。

同検証委では、各電源ごとにモデルプラントを設定し、稼働率などをさまざまな前提条件で発電コストを試算している。原子力発電所のモデルは、直近七年間に稼働した四発電所の平均値として、出力百二十万kW、建設費四千二百億円の数值を採用した。

(12面に詳細記事)

## 原子力発電コスト8.9円/kWh

### 好条件の風力、地熱と同等安価

政府のエネルギー・環境会議の「コスト等検証委員会(委員長石田勝之・内閣府副大臣)の第七回会合が十三日、東京・霞が関の第四合同庁舎で開かれ、原子力発電をはじめとする各電源別発電コストを試算した報告書案を提示し、議論した。原子力発電は福島第一原子力発電所事故を踏まえ、炉心溶融事故が発生する可能性も勘案、従来試算

項目に加え、新たに社会的費用として①事故リスク対応費用②政府関連予算など政策経費を加えて、一kWh当たり八・九円と試算した。〇四年の試算五・九円に比べて、約五〇%増加したものの、発電条件の良い風力や地熱と同等か、石炭火力やLNG火力と肩を並べる程度にとどまった。次回十九日に最終会合を開き、今回指摘された

## この一週間の出来事

(8日(木)~14日(水))

- 青森県市町村長説明会で建設再開の意見(8日)
- 東電改革アクションプラン発表(9日)
- 保安院、福島第一冷温維持計画を妥当(9日)

## 原産新聞の紙面から

### ◇国内ニュース

- 福島の声=ベラルーシに学ぶ農作(2面)
- 中長期措置で原子力委決定(2面)
- 来年度もんじゅ試験予算を取り下げ(2面)
- 今年の回顧と年表(4、5面)

### ◇海外ニュース

- 英政府、新設計画で廃棄物処分経費指針(3面)
- 米韓原子力協定交渉が本格化(2面)
- TVO、OL4計画を入札・エンジ段階に(3面)

Flexible & Powerful

未来に向かって柔らかくたくましく発展する。

## 耐放射線性に優れたゴム材料

放射線環境におけるゴム材料の耐久性を向上する事により

- 超高濃度放射線レベルでの使用が可能
- 部品交換頻度・作業被ばく量の低減
- 設備機器の信頼性向上
- 豊富な製品ラインナップ  
(シート・パッキン・シール材etc.)

### 耐放射線環境ゴムの種類と特徴について

区分	ゴムの種類	特徴	使用温度範囲(目安)	耐放射線確認レベル
100シリーズ	EPDM系	機械的強度に優れた材料です。	-35~90°C	8MGy
300シリーズ	EPDM系	汎用で適用範囲の広い材料です。	-35~90°C	20MGy
500シリーズ	EPDM系	高真空系の材料に適しています。アウトガス特性はフッ素ゴム同等以上の機能を有しています。	-50~100°C	1.2MGy
700シリーズ	BR系	2液室温硬化タイプの不定型シール材です。	-20~70°C	2.6MGy
800シリーズ	ブチル系	粘着及び水密性に優れた材料です。	-30~70°C	1MGy
900シリーズ	アクリル系	耐熱、耐油用途に適しています。	-20~130°C	2MGy

耐放射線環境ゴムの研究開発は、独立行政法人 日本原子力研究開発機構殿との共同成果です。

●この製品に関するお問い合わせは [E-mail:info04@hrc.co.jp](mailto:E-mail:info04@hrc.co.jp)

●耐放射線性に優れたゴムに関しては早川ゴムのホームページを参照してください。 <http://www.hrc.co.jp>

早川ゴム株式会社

東京支店内 耐放射線環境ゴム推進チーム  
〒135-0031 東京都江東区佐賀1-16-10  
TEL. 03-3642-1180 FAX. 03-3643-6288